

【導入経過】

●少子化や共働き世帯の増加等の影響により、市立幼稚園への入園児数は年々減少し、幼稚園の小規模化が進んでいる。

●著しく小規模化が進んでいる園では、保護者から小規模園で受ける教育内容に心配の声があったこともふまえ、適切な教育の実施のために集団規模を確保し教育活動を行っていくことを検討し、令和3年度から本事業を開始。

【実施概要】

小規模化が進む園は、在園児の合計が10人未満となった場合には、近隣に立地する園と交流活動を行うことで集団規模を確保して、幼児教育を行う。

【実施状況】（）内の数字は園児数

令和3年 天神山（12）－修斉（5）、山直南（11）－山滝（6）

令和4年 天神山（12）－修斉（4）、山直南（9）－山滝（3）
岸城（58）－浜（9）

令和5年 天神山（12）－修斉（5）、山直南（7）－山滝（5）
岸城（71）－浜（7）、春木（9）－大芝（46）、
山直北（67）－城東（7）

令和6年 天神山（6）－修斉（4）、山直南（5）－山滝（5）
岸城（60）－浜（3）、山直北（55）－城東（7）

令和7年 天神山（12）－修斉（5）、岸城（57）－浜（7）、
山直北（67）－城東（8）－山直南（11）

※幼稚園間の移動は徒歩又は公共交通機関（バス）を基本とするが、それにより難しい場合はタクシーを利用

転園勧奨

●令和4年度から、適切な教育の実施のために集団規模を確保し教育活動を行っていくために、在園児が5人未満となる園への入園希望者には、入園相談時に転園勧奨を行う。

山滝幼稚園の状況

●令和6年度に実施した令和7年度の園児募集において、在園児が0人になったことから、令和7年度は休園している。

●令和7年度に令和8年度の園児募集を行うが、申込者が10人に満たない場合は、交流事業における園児の負担などの課題が大きいため、令和8年度も引き続き休園することを決定。